



平成17年基準

平成20年 岐阜県鉱工業指数

1 概況

… 生産指数 前年比4.3%の低下 …
 出荷指数 前年比2.7%の低下
 在庫指数 前年比7.7%の上昇

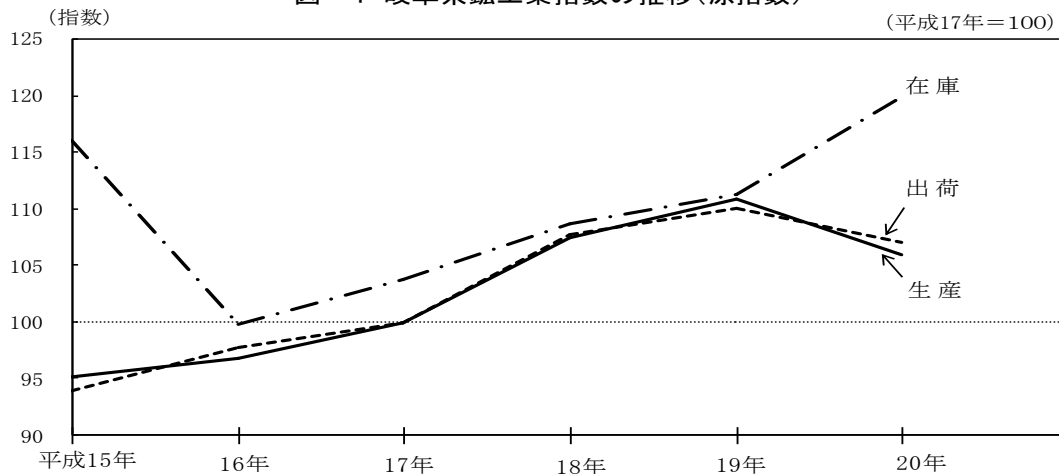
平成20年の生産指数は、輸送機械工業、化学工業等が上昇したものの、一般機械工業、電子部品・デバイス工業等が低下したため、前年比4.3%の低下となった。また、出荷指数は、電子部品・デバイス工業、窯業・土石製品工業等が低下したため2.7%の低下となり、在庫指数は、その他工業、窯業・土石製品工業等が上昇したため7.7%の上昇となった。

(図-1)

(平成17年=100)

| 区分 | 生産 | | 出荷 | | 在庫 | |
|-------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|
| | 指数 | 前年比 (%) | 指数 | 前年比 (%) | 指数 | 前年比 (%) |
| 平成15年 | 95.2 | — | 93.9 | — | 116.0 | — |
| 16 | 96.8 | 1.7 | 97.7 | 4.0 | 99.8 | △ 14.0 |
| 17 | 100.0 | 3.3 | 100.0 | 2.4 | 103.8 | 4.0 |
| 18 | 107.5 | 7.5 | 107.7 | 7.7 | 108.7 | 4.7 |
| 19 | 110.8 | 3.1 | 110.0 | 2.1 | 111.3 | 2.4 |
| 20 | 106.0 | △ 4.3 | 107.0 | △ 2.7 | 119.9 | 7.7 |

図-1 岐阜県鉱工業指数の推移(原指数)



注：年指数の値は、生産及び出荷指数は月指数の平均値、在庫指数は年末値による。

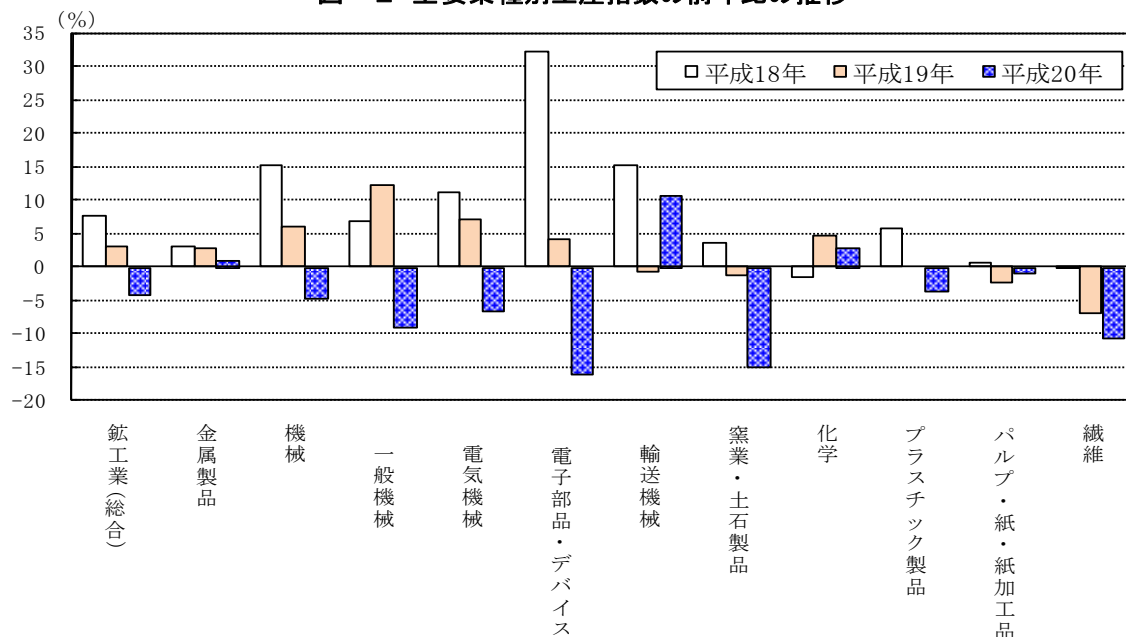
2 主要業種別生産指数の前年比

主要業種別に生産指数を前年と比べると、上昇したのは、輸送機械工業（前年比10.8%）、化学工業（同2.8%）、金属製品工業（同1.0%）の3業種となった。

一方、低下したのは、電子部品・デバイス工業（同△16.0%）、窯業・土石製品工業（同△14.9%）、繊維工業（同△10.7%）、一般機械工業（同△9.0%）、電気機械工業（同△6.6%）、プラスチック製品工業（同△3.7%）、パルプ・紙・紙加工品工業（同△0.9%）の7業種となった。

（図-2、表-1）

図-2 主要業種別生産指数の前年比の推移



3 全国、中部との生産指数の比較

… 全国は3.4%、中部は5.4%の低下 …

(平成17年=100)

| 区分 | 岐阜県 | | 全国 | | 中部 | |
|-------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|
| | 生産指数 | 前年比 (%) | 生産指数 | 前年比 (%) | 生産指数 | 前年比 (%) |
| 平成15年 | 95.2 | — | 94.1 | — | 90.3 | — |
| 16 | 96.8 | 1.7 | 98.7 | 4.9 | 95.8 | 6.1 |
| 17 | 100.0 | 3.3 | 100.0 | 1.3 | 100.0 | 4.4 |
| 18 | 107.5 | 7.5 | 104.5 | 4.5 | 107.7 | 7.7 |
| 19 | 110.8 | 3.1 | 107.4 | 2.8 | 111.0 | 3.1 |
| 20 | 106.0 | △4.3 | 103.8 | △3.4 | 105.0 | △5.4 |

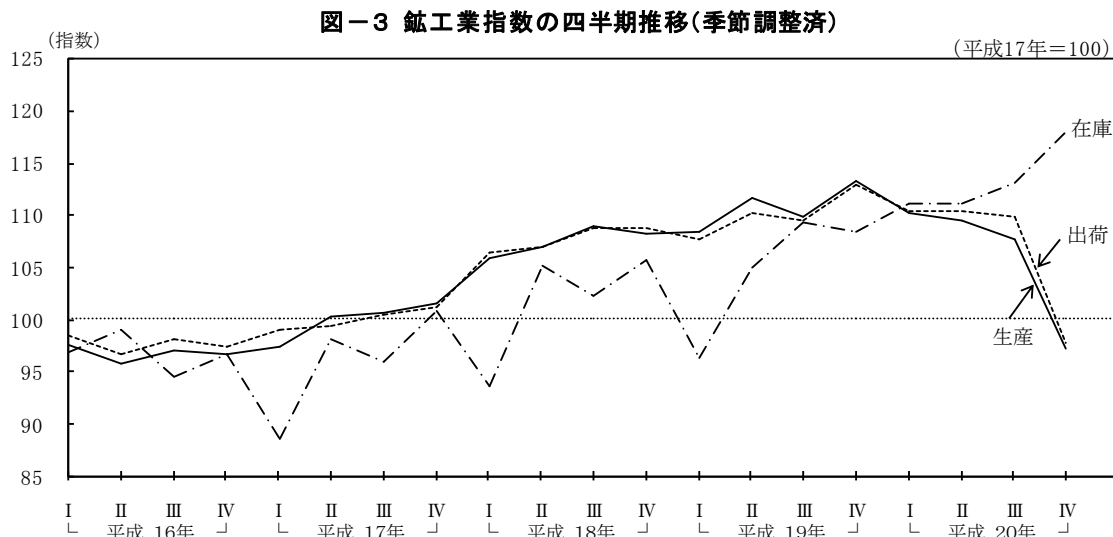
※「中部」とは、中部経済産業局管内5県（愛知、三重、石川、富山、岐阜）

※資料：経済産業省、中部経済産業局

4 鉱工業指数の四半期推移

平成20年の生産指数を四半期ごとにみると、第1四半期は前期比2.7%の低下、第2四半期は0.7%の低下、第3四半期は1.6%の低下、第4四半期は9.8%の低下となり、低下傾向が続いた。また、出荷指数も低下傾向が続き、第4四半期は前期比11.0%の低下となった。一方、在庫指数は上昇傾向が続き、第4四半期は前期比4.3%の上昇となった。

(図-3、表-2)

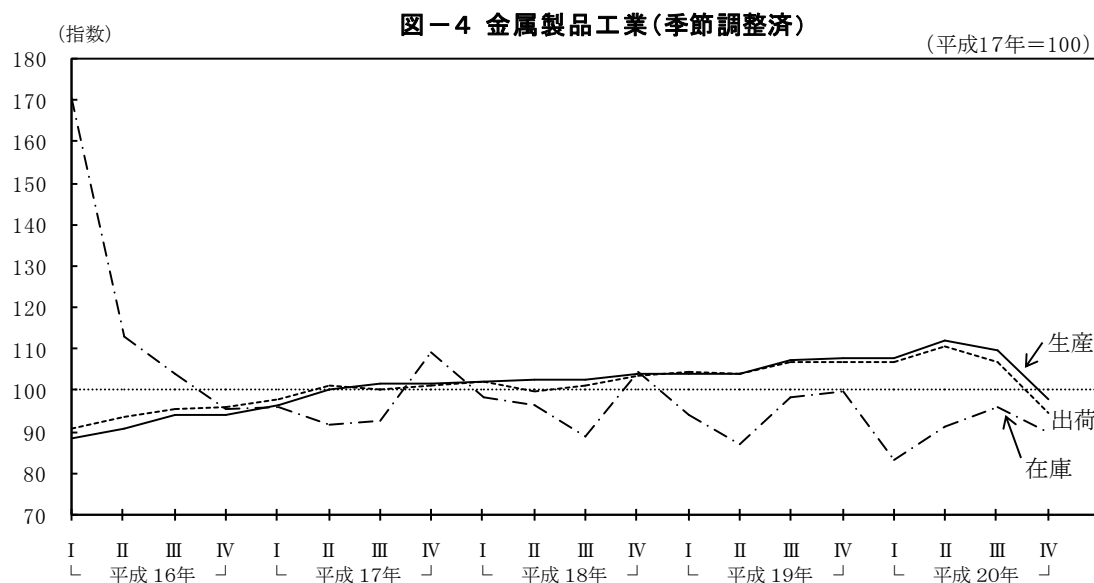


5 主要業種別指数の動向

(1) 金属製品工業

- ・生産指数は、アルミサッシ、スチール又はステンレスシャッター等が減少したものの、超硬チップ、ボルト・ナット等が増加したため、前年比1.0%の上昇となった。
- ・出荷指数は、アルミサッシ、スチール又はステンレスシャッター等が減少したため、前年比0.9%の低下となった。
- ・在庫指数は、アルミサッシ、アルミドア等が減少したため、前年比3.2%の低下となった。

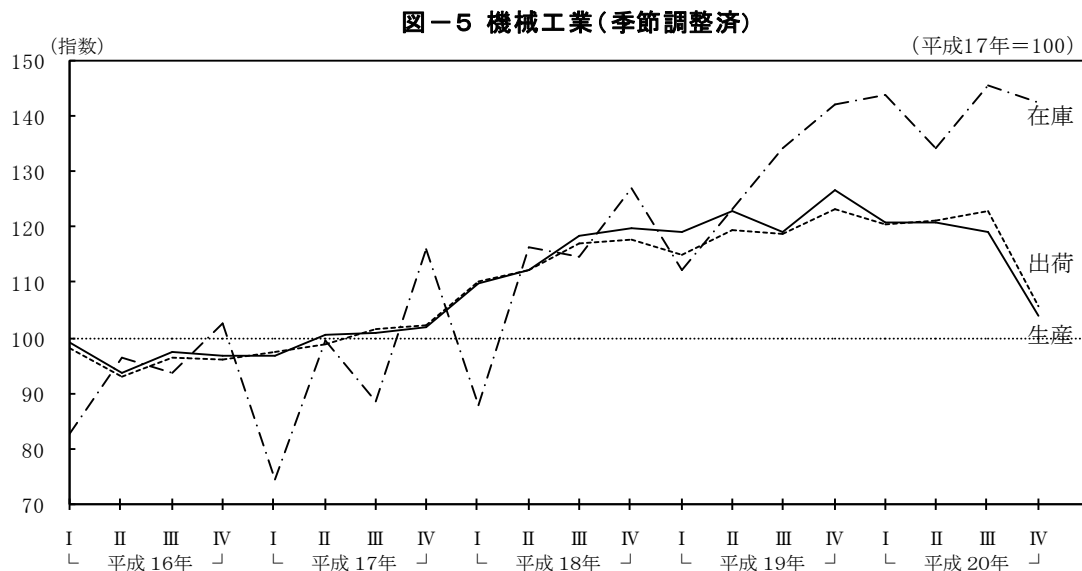
(図-4、表-1)



(2) 機械工業

- ・生産指数は、輸送機械工業等が上昇したものの、一般機械工業、電子部品・デバイス工業等が低下したため、前年比4.8%の低下となった。
- ・出荷指数は、電子部品・デバイス工業、一般機械工業等が低下したため、前年比1.4%の低下となった。
- ・在庫指数は、前年比2.4%の上昇となった。

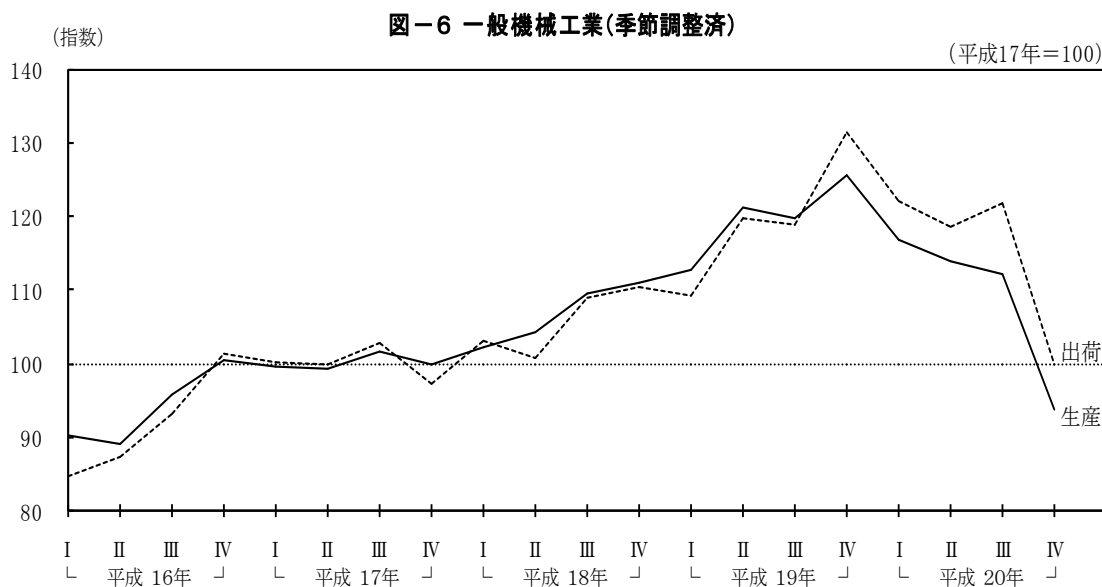
(図-5、表-1)



(2) -ア 一般機械工業

- ・生産指数は、超硬工具(超硬チップを除く)、金型等が増加したものの、給排水栓類(器洗浄弁・ボールタップを含む)、研削盤等が減少したため、前年比9.0%の低下となった。
- ・出荷指数は、研削盤、給排水栓類(器洗浄弁・ボールタップを含む)等が減少したため、前年比3.4%の低下となった。

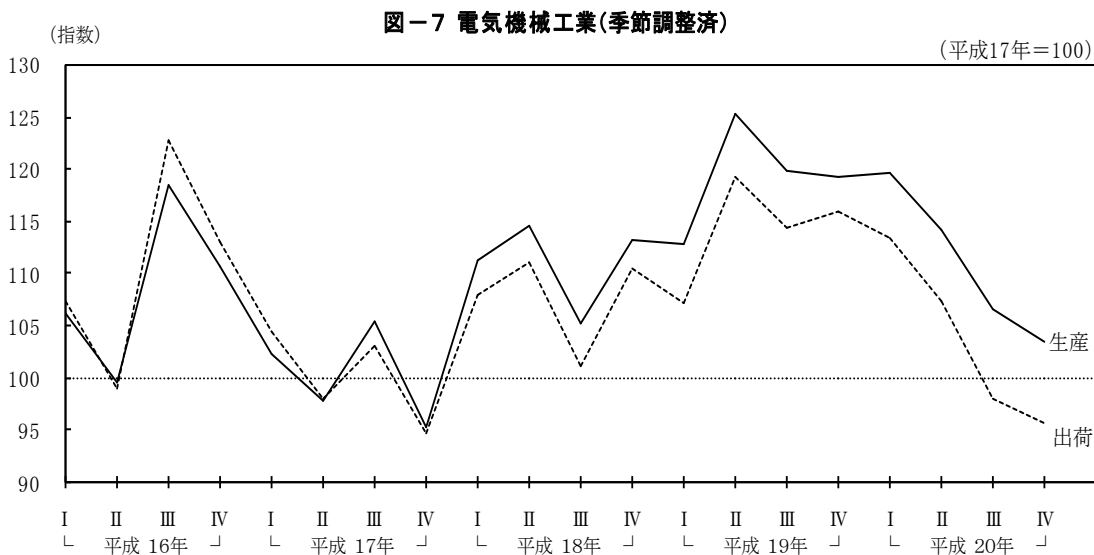
(図-6、表-1)



(2) ーイ 電気機械工業

- ・生産指数は、非標準三相誘導電動機（70W以上）、蛍光灯器具等が増加したものの、単相誘導電動機、換気扇等が減少したため、前年比6.6%の低下となった。
- ・出荷指数は、単相誘導電動機、換気扇等が減少したため、前年比8.9%の低下となった。

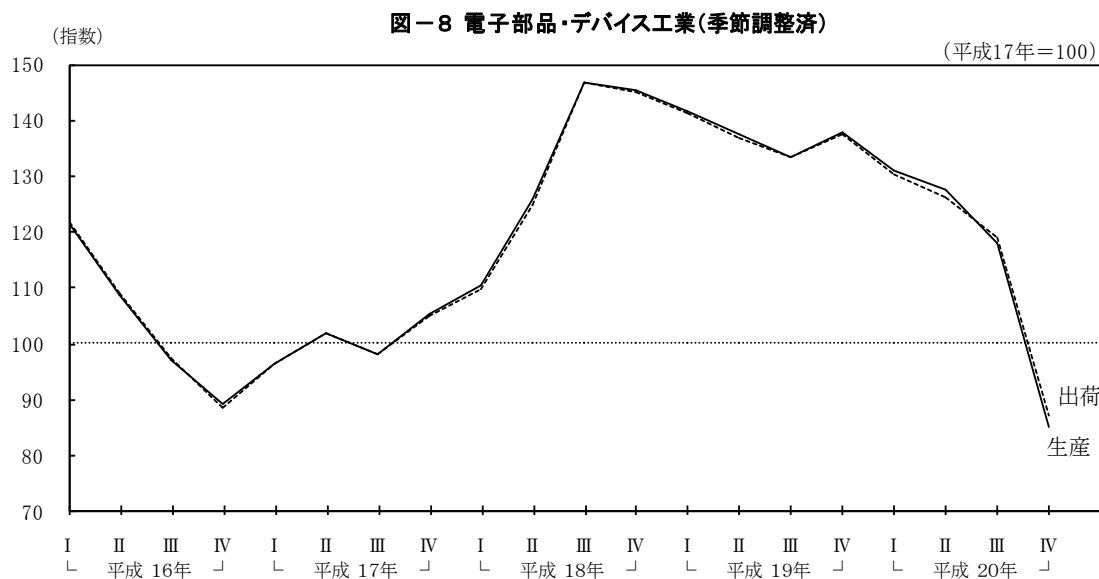
(図-7、表-1)



(2) ーウ 電子部品・デバイス工業

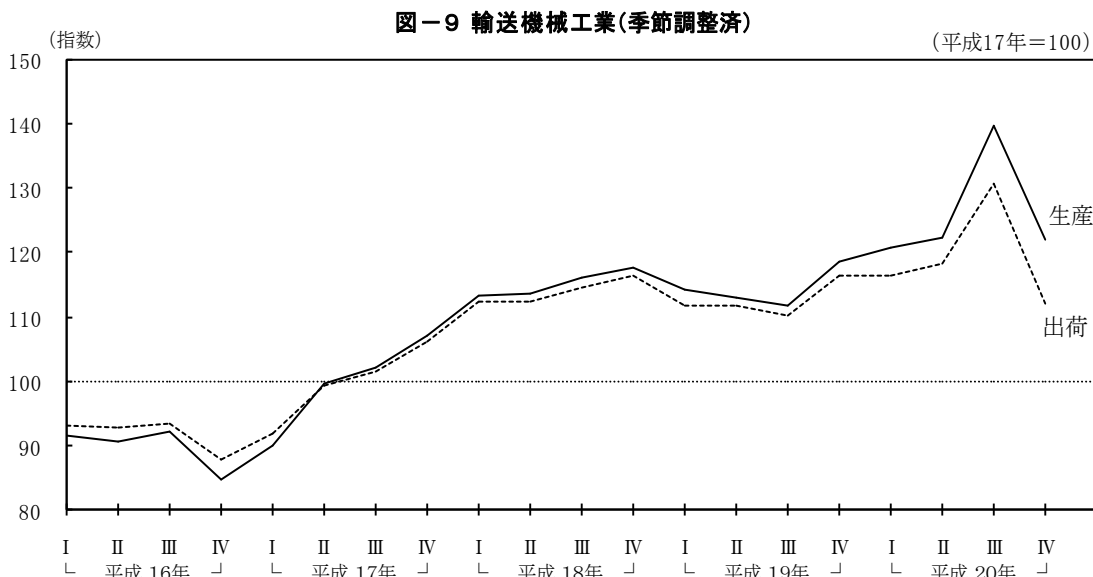
- ・生産指数は、電子回路基板、半導体集積回路等が減少したため、前年比16.0%の低下となった。
- ・出荷指数は、電子回路基板、半導体集積回路等が減少したため、前年比15.6%の低下となった。

(図-8、表-1)



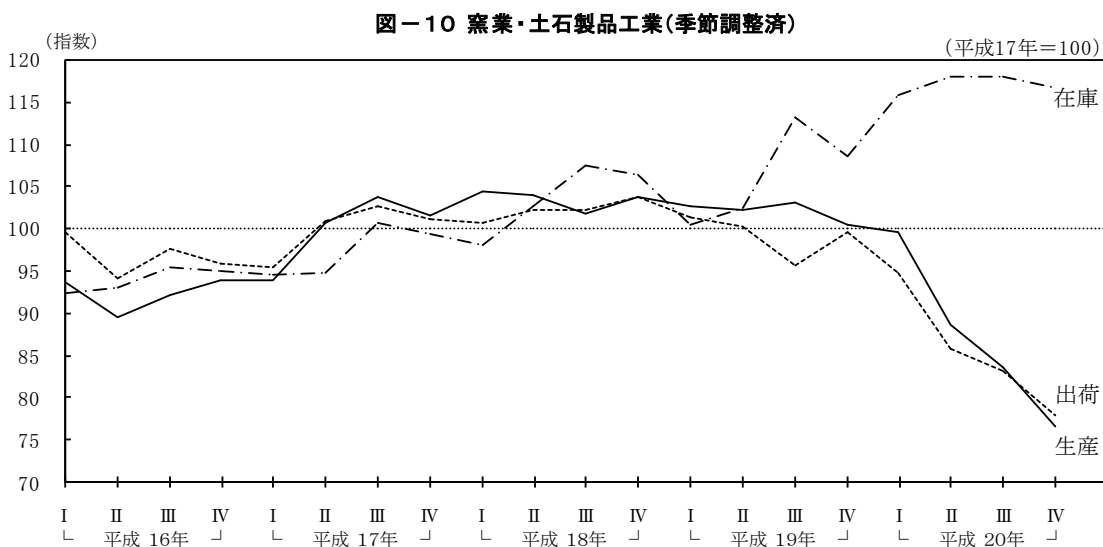
(2) 一エ 輸送機械工業

- ・生産指数は、ステアリング装置、懸架制動装置部品（ショックアブソーバ）等が減少したものの、乗用車ボデー、シャシー及び車体部品等が増加したため、前年比10.8%の上昇となった。
 - ・出荷指数は、乗用車ボデー、シャシー及び車体部品等が増加したため、前年比6.3%の上昇となった。
- (図-9、表-1)



(3) 窯業・土石製品工業

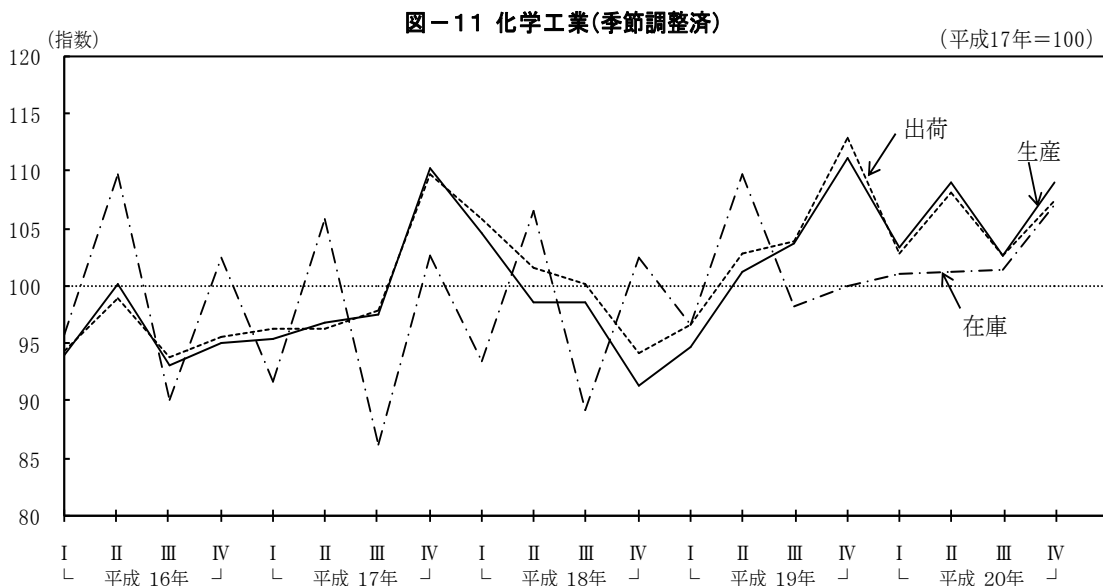
- ・生産指数は、ガラス短繊維製品、特殊炭素製品等が増加したものの、触媒担体・セラミックフィルタ、タイル(陶磁器製タイル)等が減少したため、前年比14.9%の低下となった。
 - ・出荷指数は、触媒担体・セラミックフィルタ、タイル(陶磁器製タイル)等が減少したため、前年比14.0%の低下となった。
 - ・在庫指数は、タイル(陶磁器製タイル)、ガラス長繊維製品等が増加したため、前年比5.0%の上昇となった。
- (図-10、表-1)



(4) 化学工業

- ・生産指数は、触媒（自動車排気ガス浄化用）、無水酢酸等が減少したものの、医薬品、活性炭等が増加したため、前年比2.8%の上昇となった。
- ・出荷指数は、医薬品、活性炭等が増加したため、前年比0.8%の上昇となった。
- ・在庫指数は、活性炭、メラミン樹脂等が増加したため、前年比8.0%の上昇となった。

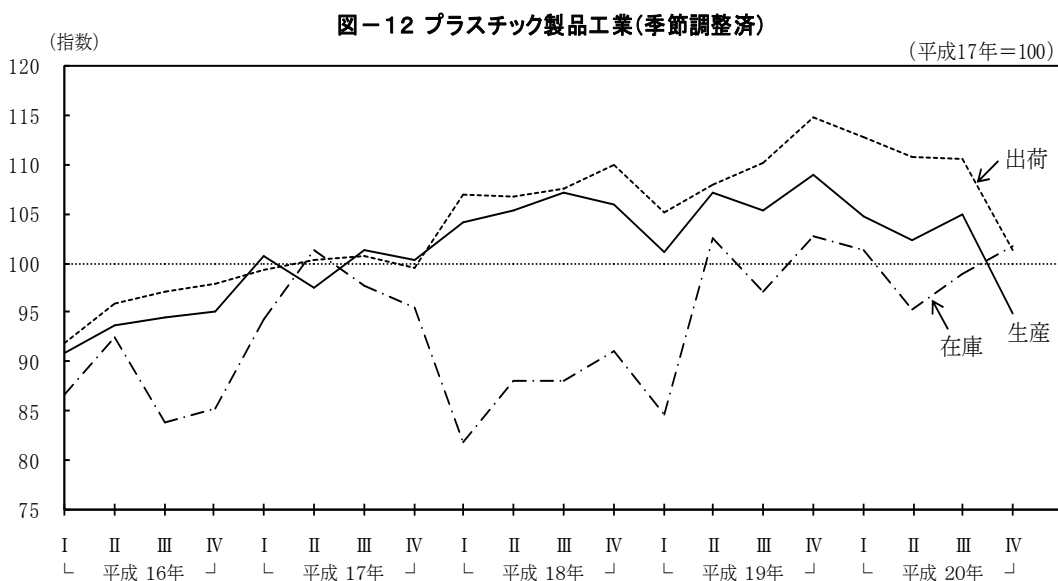
(図-11、表-1)



(5) プラスチック製品工業

- ・生産指数は、プラスチック製フィルム、発泡プラスチック製品等が増加したものの、プラスチック製機械器具部品、ホース（プラスチック製）等が減少したため、前年比3.7%の低下となった。
- ・出荷指数は、プラスチック製機械器具部品、ホース（プラスチック製）等が減少したため、前年比0.5%の低下となった。
- ・在庫指数は、プラスチック製フィルム、ホース（プラスチック製）等が減少したため、前年比1.8%の低下となった。

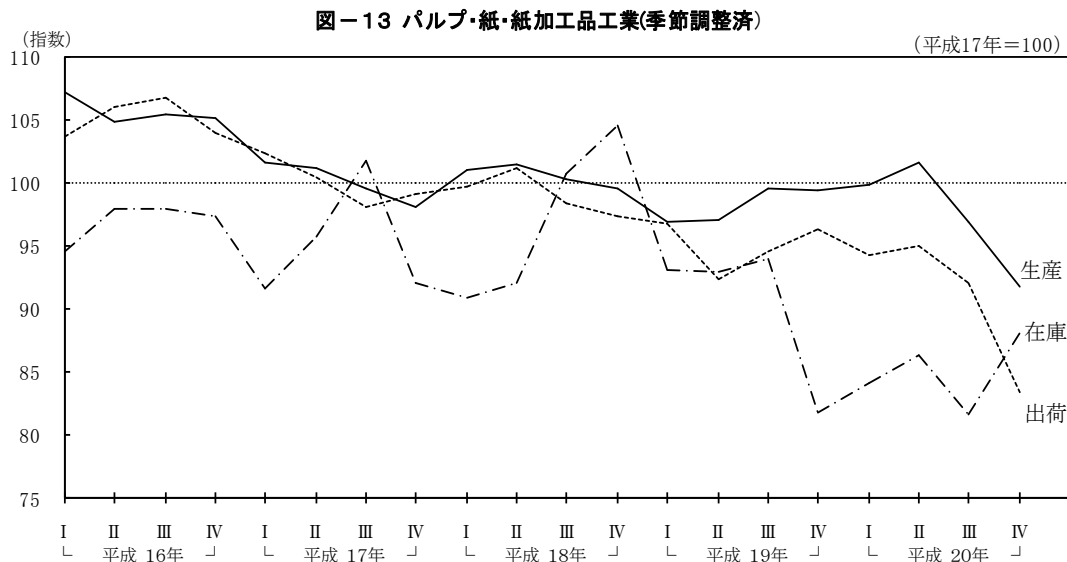
(図-12、表-1)



(6) パルプ・紙・紙加工品工業

- ・生産指数は、情報用紙、包装用紙が増加したものの、段ボール、特殊印刷用紙等が減少したため、前年比0.9%の低下となった。
- ・出荷指数は、特殊印刷用紙、段ボール等が減少したため、前年比4.1%の低下となった。
- ・在庫指数は、衛生用紙、包装用紙等が増加したため、前年比5.4%の上昇となった。

(図-13、表-1)



(7) 繊維工業

- ・生産指数は、織物製外衣、ニット生地染色整理等が減少したため、前年比10.7%の低下となった。
- ・出荷指数は、織物製外衣、不織布等が減少したため、前年比17.6%の低下となった。
- ・在庫指数は、羽毛・羽根ふとん、不織布等が増加したため、前年比11.8%の上昇となった。

(図-14、表-1)

